

平成29年度 県立芦屋国際中等教育学校 学校評価シート(年度末評価)

<p>【教育の特徴】 一般の中学校・高等学校にあたる前期課程・後期課程の6年間を通じて、異なる言語環境や文化的背景のもとに育った生徒が、能力や適性に応じて弾力的に学ぶ中高一貫校として、教育活動を展開する。</p> <p>【学校教育目標】 (1) 言語環境や文化的背景の異なる子どもたちの相互啓発により、共に生きる心をはぐくみ、多文化社会に生きる人間形成を図る。 (2) 個に応じた指導の充実により、基礎・基本を確実に身に付け、それを基に自ら学び、考え、判断し、行動する力を培う。 (3) コミュニケーション能力や異なる文化を理解・尊重する態度など豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる力を育てる。</p> <p>【学校経営の重点】 (1) 個に応じたきめ細かな支援 ① 自己実現への支援 自己の出身国や滞在国等の言語・文化を探究するなど、自尊感情や自己肯定感をはぐくむ学習活動を取り入れるとともに、豊かな共生の心を培い、自己実現に向けた支援を行う。 ② 弾力的で多様なカリキュラム編成と学習支援 少人数指導や個別指導など、6年間を通じた弾力的で系統的なカリキュラム編成を行い、日本語や日本文化の理解の程度、海外で身につけた語学力や教科内容の理解度等に合わせた、個に応じた学習支援を行う。また、ICTの活用や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。</p>	<p>③ 主体的な進路実現への支援 中高一貫校の強みを生かした、トライやるウィークからトライやるワークにつながる体系的なキャリア教育を充実させ、キャリアガイダンス機能を向上し、生徒の主体的な進路実現を支援する。また、様々な語学に関する資格試験に対応した学習指導を行うなど、生徒の個性を生かした資格取得を支援し、後期課程においては取得した資格を単位認定するなど、生徒の達成感や充実感を引き出し、主体的な進路実現への意識を高める。</p> <p>④ 心の教育の推進 道徳教育、人権教育、特別支援教育を計画的に推進するとともに、組織的な教育相談・カウンセリング機能を向上させる。また、生徒や保護者の悩みに寄り添い、学校と保護者が連携して命を大切に「心の教育」の充実を図る。</p> <p>⑤ 交流活動の推進 他の教育機関や国際交流協会、国際協力機構(JICA)などの関係機関等との連携・交流を図り、多様な学習環境を創造する。</p> <p>(2) 開かれた学校づくりの推進 学校の教育目標や指導計画、日々の教育活動の様子を積極的に発信し、学校や地域の課題を保護者・地域住民と共有するとともに、協働と連携を図りながら、保護者・地域に信頼される教育活動を推進する。</p>
---	---

【本年度の重点項目】

領域	重点目標	中間評価			取組内容・課題	年度末評価			評価	学校関係者評価・意見	
		点	割合	評価点平均(昨年)		点	割合	評価点平均(昨年度末)			
1	授業力の向上と学習指導の充実	各授業時(間)の目標を明確に示すことができた。	5	8.6%	3.2(3.1)	・単元ごとのねらいを示し、それを意識した授業を行った。 ・実技では、準備運動後にねらいと練習方法を説明した。 ・授業の始めに目標を示し、授業の終わりに1時間のまとめをすることで、その時間に何を学びどんな活動をし、何ができるようになったかがわかるように努めた。	5	9.1%	3.4(3.2)	B	<ul style="list-style-type: none"> 6年次生の保護者アンケートから、多文化共生の精神を柱とする本校の教育内容がいかに素晴らしいかが伝わってくる。その一方で、「子どもを芦屋国際中等教育学校で学ばせてよかった」の項目の回答で、「思わない」がわずかな%であるとは言え0%になっていないことが残念であり、この理由を分析してより良い学校づくりに生かしてもらいたい。 社会福祉協議会で関わらせていただいているが、トライやる・ウィークで芦屋の生徒は非常によく頑張っている。 「公開授業・研究授業を行うことができた」の項目で、評価が低い値となっている。①がせて②となれるよう、前向きに捉え、引き続き取り組んでほしい。 学校広報紙「〇月の芦屋」を見ると、素晴らしい取り組みをしている学校であることがわかる。各言語のスピーチコンテンツへの出場など語学学習に力を入れている様子がよくわかる。これからもこの素晴らしい実践を継続してほしい。学校広報紙は、これから芦屋に入ろうとしている方達にもとても良い情報源であると思う。 海外研修報告会では、留学の良い面、難しい面どちらも語られていて良かった。ただ、女子の発表者が多かったため、もっと男子が活躍できる機会があってほしい。 入学者選考の出願条件が今年度から変わったことで、芦屋の良さであった国籍のバランスに偏りが出ないか心配している。「日本語・日本文化に精通していない生徒の教育」の推進を意図してのことと思うが、対象校①が定員割れとなり、県の意図通りであったのか。中高生の時期は二重国籍の生徒が多いはずであり、定員割れについては、募集要項の「周知」だけで解決できるのかという疑問がある。PTAも同窓会も、この問題には関心を持っている。
			4	48.6%			4	57.6%			
			2	40.0%			2	33.3%			
			1	2.8%			1	0.0%			
		教師からの一方通行の授業ではなく、生徒の活動を重視した授業に向けての改善ができた。	5	11.4%	3.5(3.2)	・何故その題材があるのかなどを考えながら取り組むことで、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業ができた。考えて表現するところまで何度も取り組むことで、理解が深まる生徒が増えた。 ・生徒自身に考えさせ、自由に記述・発言させる時間を取り入れた授業を意識した。 ・グループ学習を取り入れ、アクティブ・ラーニングを意識した授業をした。	5	12.1%	3.4(3.5)	B	
			4	60.0%			4	51.5%			
			2	22.9%			2	36.4%			
			1	5.7%			1	0.0%			
		前期と後期のつながりを意識した授業ができた。	5	8.8%	2.8(3.2)	・前期で学んだ基礎的な力を発展させるように後期では努めた。 ・興味関心を引き出すために、後期で学習する内容について前期の授業で意図的に触れる機会をつくった。 ・4年のCグループは、継続指導をしてはいるが、急に内容が難しくなり3年時より、後期の内容を見通した指導が必要と感じた。	5	15.1%	3.4(3.0)	B	
			4	29.4%			4	45.5%			
			2	55.9%			2	39.4%			
		生徒の習熟度・到達度を意識した授業ができた。	5	8.6%	3.0(3.0)	・演習を増やし、互いに教えあう機会を増やした。 ・センター試験の問題、難関私大の過去問に挑戦させる時間を設けた。 ・英語では、特に習熟度が異なるので以前からよく考えて実施している。 ・単元ごとに自己評価や振り返りをさせた。そのことで生徒の理解度が把握でき次の授業に生かした。	5	9.1%	3.4(3.4)	B	
4	40.0%		4	57.6%							
2	45.7%		2	30.3%							
公開授業・研究授業を行うことができた。	5	3.5%	2.0(2.2)	・国語全国大会において、公開授業ができた。・日本語教育公開授業を行った。 ・授業見学については、いつでもオープンに行った。 ・4月・11月の公開授業で授業を行った。・若手の先生方と研究内容を共有している。 ・高英研の研究大会で、自己の授業について発表した。	5	7.2%	2.5(2.5)	C			
	4	6.9%			4	25.0%					
	2	65.5%			2	46.4%					
	1	24.1%			1	21.4%					
2	情報発信とコミュニケーションの充実	必要な情報を事前に知らせることができた。	5	8.1%	3.0(3.1)	・研修旅行や保護者会など情報発信・案内を適宜行った。 ・生徒に必要な情報を発信できた。教科主任として職員間の連携にも努めた。 ・LHR・SHR・学年集会・学年通信等で知らせた。 ・職員には、職朝フォルダや、職朝で適宜アナウンスした。	5	7.1%	2.9(2.9)	C	
			4	37.1%			4	36.3%			
			2	52.4%			2	56.6%			
			1	2.4%			1	0.0%			
		取り組みに関する説明を十分に行うことができた。	5	3.4%	2.6(2.8)	・生徒には、授業・進路に関する説明を充分行えたが、保護者には十分に説明できたとは言えない。 ・目的や理由をしっかりと伝えられた。 ・年次集会や、保護者会を活用して行った。 ・生活支援部長として、生徒が安全安心な学校生活を遅れるよう説明責任を果たした。	5	2.7%	2.9(3.1)	C	
			4	27.1%			4	40.5%			
			2	67.8%			2	56.8%			
			1	1.7%			1	0.0%			
		一方通行ではなくコミュニケーションを図ることができた。	5	4.1%	2.7(3.0)	・生徒の情報をできる限り学年内で交換するよう努めたが、100%とまではいかなかった。 ・個人面談を繰り返し、生徒の進路相談にのった。 ・保護者と連絡を取り合って、必要な情報を交換することができた。 ・積極的に国際高校と調整し総務部・教務部・体育科に情報提供した結果、授業や行事運営が円滑に進んだ。	5	5.4%	3.0(3.1)	B	
			4	30.1%			4	41.4%			
			2	65.8%			2	52.3%			
			1	0.0%			1	0.9%			
結果・成果の通知ができた。	5	4.1%	2.6(2.7)	・学年通信等を通して、成果を通知していたが、基本的には学年主任任せになっていた。 ・結果の通知を含めて、生徒向けにはなるべく細やかに伝えていくつもりである。保護者に対しては十分かどうかかわからない。 ・学級通信の発行数は現時点で23号。昨年を既に上回っている。	5	2.7%	2.9(2.9)	C			
	4	23.0%			4	40.0%					
	2	72.9%			2	57.3%					
	1	0%			1	0.0%					

【専門部の業務評価】(昨年度末)

(1)総務部		
項目	平均	評価
企画・運営	3.6(3.8)	B
入学者選考等	3.7(4.0)	B
渉外・PTCA・他校等	3.3(3.7)	B
広報	3.7(3.7)	B
国際交流	3.7(3.7)	B
防災	3.0(3.3)	B
庶務	3.2(3.4)	B
データ整理・管理	3.0(4.0)	B

(2)学習支援部							
教務	項目	平均	評価	項目	平均	評価	
							教育課程等
時間割	4.5(4.7)	A	体験学習	4.0(4.0)	A		
学 籍	4.0(4.3)	A	総合的な学習の時間	3.0(4.0)	B		
調査・統計	5.0(4.3)	A	項目	平均	評価		
教科書・教材	4.2(3.0)	A	図書	図書	選定・紹介	3.8(3.3)	B
新入生テスト	3.0()	B	図書	貸出	3.7(3.0)	B	
学習状況調査・授業評価	5.0(3.0)	A	項目	平均	評価		
全国学力・学習状況調査	5.0(3.0)	A	日本語指導	3.8(3.8)	B		
定期考査・データ処理	5.0(3.0)	A	日本語研究	4.3(3.3)	A		

(3)生活支援部						
生徒指導	項目	平均	評価	項目	平均	評価
生徒会活動	4.0(4.4)	A	教育環境整備	4.0(4.0)	A	
教育相談	3.7(3.0)	B	項目	平均	評価	
安全指導	3.7(4.5)	B	人権教育	3.0(4.0)	B	
底 務	4.0(3.0)	A	道徳教育	3.0(4.0)	B	
式場準備	4.0(3.0)	A	項目	平均	評価	
関係機関等との連携	3.8(4.6)	B	ネットワーク管理	4.7(4.7)	A	
部 活 動	3.8(4.3)	B				
特別指導	4.0(3.0)	A				

<学校評価の改善について>	
平成23年度の学校評議員会での協議を受けて平成24年度より学校評価を以下の通り改善し、今年度も継続している。	
(1) 学校評価の評価項目	評価項目を減らし、重点目標に係る項目のみとする。
(2) 部署ごとの取り組み	担当業務について個々の業務内容について評価を行った後、合算して評価する。
(3) 学校評議員会・学校関係者評価委員会では、重点目標に係る評価のみを協議し、部署ごとの取り組みについては、報告とする。(ただし、著しく評価の低いものについては、次年度の重点項目の一つとして協議する。)	
(4) 年度末の学校評価シートについては、重点目標と部署ごとの項目の評価を記載する。	